木野通信
KINO PRESS
NO.42
京都精華大学
KYOTO
SEIKA
UNIVERSITY

旅をする、ということ

学長◎ 島本 浣 SHIMAMOTO Kan

大学生だった頃、1年ほどヨーロッパやアジアをプチ放浪したことがある。海外旅行が自由化され、日本発シベリア経由ヨーロッパ行きが定着し始めた時代である。戦前の東京発ベルリン行き列車や戦後にも続いた横浜発マルセイユ行きの船便に変わる、新しいヨーロッパとの交通路だった。飛行機運賃が高かった時代なので、このシベリア経由路は若者にはけっこう人気があった。東京オリンピックや大阪万博といった国際的イベントによって、戦後の日本社会が海外への夢を現実的に抱くようになった時代でもあった。そのひとつが海外旅行だったと思う。もちろん、海外といっても当時は欧米が中心なので、その点では明治以来の視線の構造は変わっていないが、それでも気軽にヨーロッパに行けるようになったことは、閉塞的な気分を抱えていた若者には魅力的に映ったのである。ぼくもそんな熱をもってしまったひとりで、横浜からナホトカ行きの船に乗り込んだのだった。

最初は、大学での専攻（美学美術史）のこともあって、ドイツでみっちりとドイツ語を勉強しようと思っていたが、ナホトカに着いたときはそんなことをすっかり忘れて、なんとなく長い旅の夢にとりつかれてしまった。船のなかで出会った人たちと話しているうちに、そんな気分になってしまったのだ。そして、ヨーロッパからインドまで。日本の若い旅行者のあいだで定番となっていたコースを鉄道とバスで歩いた。バイトもしながらのゆったりした旅だった。

その旅のことはいまでもよく思い出すし、細部の映像もかなり鮮明だ。しかし、それが自分にとって何だったのかはうまく言えない。旅の意味合いについてはさまざまに語られるが、そうしたことより、1年間で少しわかったことは世界が多様だということだった。食物や風景だけでなく、ほんとうに世界にはさまざまな人間がいるということを実感したのだった。

こんな昔話を書くのも、その旅から世界を少し知ることができたことで、距離を置いて自分をみることが重要だと気づくようになったからである。自分を客観的にみてみる。実際には難しいことだが、それを意識することによって、「私」というものがわかってくると感じたからかもしれない。でも、そうしたことがわかったのは、旅からずいぶんたってからだったが。

旅は自己相対化を契機づける時間の形式だと思う。哲学的な言葉使いをしてしまったが、たとえば、山から麓を見下ろしたとき人や家々の小さくみえ、それによって自分の抱えている問題がつまらなくなったりすることもそうだ。それも自己の相対化だ。そこから「私」がうっすら現れてくる。だから、そうしたことができれば、したいと思えば、それは旅なのだと思う。だからこそ、旅は人生の比喩として人間の心に宿り、夢をかきたてる。

大学も、ある意味で旅の空間である。4年間という始めと終わりのある時間のなかで、「私」を発見しようとする場であるからだ。そこで働く教師や職員は、旅する若者が必要なことに手を貸し、そして4年後の新しい旅を見送る。ちょうど、ある国境の町で世話をしてもらった民宿のおじさんのように。その大きく振ってくれた両手は、続くハードな旅の励ましとなった。

この5月から京都精華大学学長を務めることになったが、そのおじさんのようにいつまでも手を振り続ける役割でいたいと思う。

「RAMA」 山口侑里子 2028023

木野通信 第42号2006年6月20日発行
京都精華大学広報部広報課
〒606-8588
京都市左京区岩倉木野町137
TEL 075-702-5197

NEWS

新4学部体制がスタート

2006年4月、1086名の新入生が入学

2006年4月、京都精華大学は既存の人文学部と芸術学部に新設のデザイン学部、マンガ学部を加えた4学部体制で、ついに新たなスタートを切った。今年度の新入生は、人文学部417名、芸術学部254名、デザイン学部214名、マンガ学部201名、の計1086名。17コースとなった芸術系3学部には新任教員も多数加わり、新年度の授業がにぎやかに始まった。

入学式は、大学より京都国際会館に場所を移し、過去最大の新入生と保護者など約2200名を迎えて2006年4月1日に行われた。当日は会場いっぱいの列席者を前に、中尾前学長、島本学長、田中教育後援会会長、学生自治会長の林玄太さんらが新1年生へ励ましの言葉を贈った。

また、テレビ局からマンガ関連番組の取材チームが訪れ、学生にインタビューするなど、早くも日本初のマンガ学部に注目が集まっていた。

NEWS

新校舎「対峰館」完成

多機能を備えた充実の実習棟

2005年5月下旬に着工、建設を進めてきた新実習棟「対峰館」も無事に完成し、4月1日より芸術学部、マンガ学部、デザイン学部の授業に使用されている。

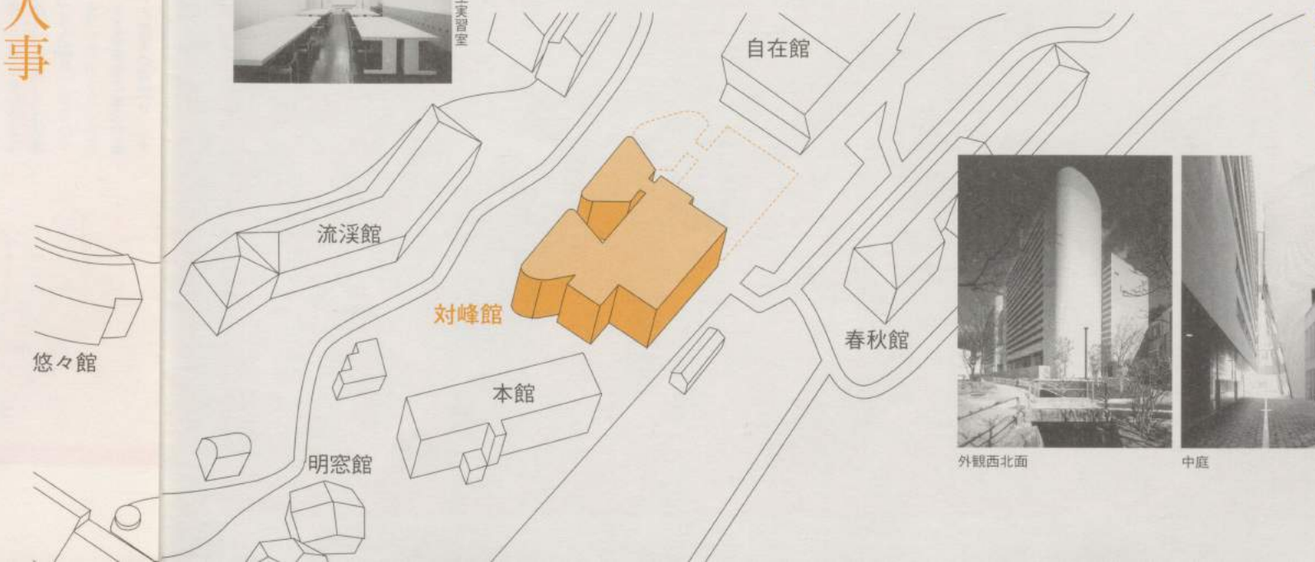
5階建ての鉄筋コンクリート構造。外観には、2000年3月に完成した自在館と同じような羽根板やコンクリート板、ガラスを使ったデザインなどが見られる。施設内の構成は、まず1階には就職課の事務室が設置され、学生たちがより足を運びやすい環境になった。実習施設としては、メディア造形学科・版画コース、マンガ学科・カートゥーンコース、マンガプロデュース学科、ビジュアルデザイン学科の実習室・研究室と、各専攻に応じたさまざまな設備が揃う。版画コースには、紙すき工房や銅・石版工房、木版画・シルクスクリーン工房に加え、CGルーム、暗室、写真スタジオまで完備している。4・5階には広々としたギャラリースペースもあり、作品を展示することができる。

今年6月には増築工事が始まり、現校舎の北側に一棟が建設される。竣工は2007年3月。最終的には延床面積1万平方メートルを超える実習棟になる予定だ。

1階 講義室

2階 銅・石版画工房

4階 3回生実習室



外観西北面

中庭

NEWS

新装刊『KINO』が好評

第1号が全国の有名書店で発売中、早くも増刷

京都精華大学情報館が編集・発行してきたワンテーマ・マガジン『木野評論』が、2006年4月に大幅な誌面刷新を加え、新生『KINO』(季刊・年4回発行、発売・河出書房新社)として創刊した。

リニューアル第1号の特集は「メガヒットの法則　マンガ新世紀宣言!!」。巻頭対談は『21世紀少年』『PLUTO』などのヒット作で知られるマンガ家、浦沢直樹と長崎尚志(浦沢直樹の原作者・プロデューサー)。また、マンガ家の二ノ宮知子、羽海野チカ、山本英夫、三田紀房らのロングインタビューも掲載。メガヒットの魅力と構造を徹底分析し、マンガの現在がわかる、読みごたえのある1冊となっている。

売れ行きも好調だ。発売元の河出書房新社の「売上ランキング」でも2週間にわたって首位を獲得。すでに増刷もかかった。各方面からの評判もよび、京都精華大学のユニークなパブリシティとしても期待が高まっている。

7月に発行される第2号では本学教員・杉井ギサブロー氏と冨野由悠季氏の対談を巻頭に、アニメーション表現の未来を特集する。

全国有名書店で発売中。購読に関する問合せは河出書房新社まで。

NEWS

東京での出張面談会を開催

「京都・北山からの熱い風」で学生が企業にプレゼンテーション

地元の関西だけではなく、東京の企業への就職サポートにも力を注いでいる就職課では、東京での出張面談会「京都・北山からの熱い風」を3月24日に開催した。昨年に続き2回目となるこのイベントは、本学の学生が合同で東京に出かけ、企業に作品のプレゼンテーションを行うもの。デザイン・映像・出版関連への就職を希望する学生ら、約70名が参加した。

会場となった表参道のギャラリーには約170社の企業が集まり、人事担当者やクリエイターたちが学生の作品を熱心に見て、制作物への質問や、就職に関する貴重なアドバイスを送った。また、東京でデザイン関連の仕事をする卒業生も多く参加し、制作への指導、実際の仕事の様子や裏話など、現場の生の声を聞くことができた。企業の担当者も学生と直接対話する貴重な機会になったようだ。この面談会を就職への大きなステップとする学生も少なくなく、今後も企画は継続する予定である。

NEWS

学園・大学人事

2006年度学園・大学人事体制

2006年度の学園・大学役職者は以下のとおり。

理事長――片桐 充
学長――島本 浣
専務理事(兼企画担当常務理事)――赤坂 博
常務理事(教学担当副学長)――小林 陸一郎
常務理事(学生担当副学長)――澤田 昌人
常務理事(総務担当)――上々手 良夫
理事――杉本 貞彦
理事――佐藤 茂雄
理事――木村 政雄
理事――熊田 泰彦
監事――﨑間 昌一郎
監事――中村 善治
芸術学部長――佐川 晃司
デザイン学部長――松谷 昌順(新任)
マンガ学部長――牧野 圭一(新任)
人文学部長――鷲尾 圭司
大学院芸術研究科長――新井 清一
大学院人文学研究科長――中島 勝住
教務部長――髙橋 伸一
国際交流室長――小松 敏宏
情報館長――島本 浣(兼任)
学生部長――小西 通博
入学部長――坪内 成晃(新任)
就職部長――牧 弥太郎
学長室長――石田 涼(新任)
企画室長――大坪 一幸(新任)
総務部長――福岡 正藏
財務部長――上々手 良夫(兼任)
情報管理部長――上々手 良夫(兼任)
広報部長――福岡 正藏(兼任)
表現研究機構 研究事業部長――上田 修三

施設整備および教育研究事業充実に関する募金についてのお願い

施設の充実、教育・研究の発展にかかる経費のご寄付ご協力をお願いいたします。寄付金額は一口5万円からとなっております。詳細につきましては「募金要項」をお取り寄せください。

この寄付金につきましては、文部科学省から「特定公益増進法人であることの証明書」の交付を受けていますので、所得から税金控除を受けることができます。詳細についてのお問合せや募金要項のお取り寄せは、京都精華大学企画室(075-702-5201)までお願いいたします。

KINO PRESS
KYOTO SEIKA UNIVERSITY

デザイン学部

ビジュアルデザイン学科

【グラフィックデザインコース】

◆ドローイング

テーマは「色彩とイメージ」。偶然出会った形やスケッチからの発見、素材や技法など多様な動機づけから自在に構想する〝イメージのトレーニング〟を行っている。「音とドローイング」の課題では、自分が好きな曲のイメージを、言葉や色彩などで豊かにデザインし、レコードジャケットを製作する。学生たちは、切り絵や水彩画など自由な手法でレコードジャケットをつくり、その曲をBGMに、何をイメージしてデザインしたか、コンセプトを発表した。

【イラストレーションコース】

◆空間表現

アイデアの幅を広げ、多面的な発想力を養うことと、素材の特性を活かし表現を工夫することを目標にしている。「美しく落ちるかたち」や「フロッタージュ（拓本）」など、実験しながら課題作品をつくり上げていく。5月に取り組んだ課題テーマは「水に浮くかたち」。油粘土を使って〝水に浮き、かつ美しいかたち〟をつくる。機能と形態の両方を満たすかたちを工夫し、技術よりもアイデアを重視して、限られた条件の中で新たな表現の可能性を引き出す。

【デジタルクリエイションコース】

◆シナリオ実習

3～4名のチームを作り、缶コーヒーやプラズマテレビなどの商品や、ファーストフード店そのものなど、気になる題材を取り上げて既存の広告を解析。自分たちのセンスとアイデアでリブランニングする。教室では、奇抜なCMのアイデアや、斬新なデザインのコンセプトが発表されていた。段階ごとにプレゼンテーションを重ね、軌道修正しながらデザインに落とし込んでいく作業によって、グループワークでの責任感や、受け手ではなく送り手になる自覚を身につけていく。

プロダクトデザイン学科

【PCDコース】

◆基礎デザイン

身近な生活環境から、自然界の「かたち」と「色彩」の観察表現を通してデザインを理解する。ネギやキャベツなどの野菜を丸ごと、またはその切り口を、繰り返し細密に描いたり、美山町にある大学の演習林に出かけ、1日100枚をノルマに植物のスケッチを行う。これらのスケッチは後で、切り絵や印刷物へ発展させていく。このハードな実習は、学生各々のオリジナルのラインやリズムを完成させると同時に、自然界から新しいモノのかたちを発見するヒントとなる。

【IPDコース】

◆基礎デザイン

発想を具体的にかたちにするための基本的なプロセスを、実技を通して身につける。「時計のデザイン」に続いての課題は「椅子のデザイン」。アイデアスケッチ、コンセプトシート、図面、そして模型を作成する。ひとりひとりの学生が椅子をデザインし、プレゼンテーションを行った。教員からは作品への個別アドバイスと合わせて「デザインとは色や形が先行するのではなく、結果としてできてくるものだ」ということが繰り返され、コンセプトの重要さが説かれた。

建築学科

【建築コース】

◆建築概論

4日間の集中授業の中で、講義・フィールドワーク・レポート作成・グループ発表・講評会を通じて、4年間建築を学ぶための基礎を築く。フィールドワークでは、グループごとに京都の建築物を自分の目で改めて確認し、その調査結果を報告する。入学早々の集中授業はハードだったが、学生たちは、作り手の目線で建築を見ることや、批評を書くことで、建築を学ぶ心構えができ、建築に対する興味、熱意が高まったようだった。

マンガ学部

マンガ学科

【カートゥーンコース】

◆動物園実習

4月初めから6月頃まで、京都市動物園の園内でクロッキーやデッサンを行う。学生たちは雨の日も風の日も、1週間毎に白黒のクロッキー100枚、着彩クロッキー50枚、デッサン3枚と、厳しい課題を次々にこなしていく。動いている鳥や動物を素早くとらえるには、根気と集中力が要求される。多くの1年生がこの実習にじっくり取組むことで画力を鍛え、それまでのクセや模倣的なスタイルから解放され、自分だけの個性あふれる線を見つけている。

【ストーリーマンガコース】

◆絵画技法

マンガ家から制作技法を学ぶ、ライブ感が自慢の実習。担当は齋藤なずな先生、ささやななえこ先生、さそうあきら先生、やまだ紫先生の豪華メンバー。「顔のパーツの選び方と造形」の授業は、頭蓋骨標本の観察と、色々なマンガ家の描く「目」の拡大画像を見て、その特徴を研究することから始まった。この日の実習メニューは「正面、20°、45°、80°の角度で顔を描く」。学生は頭上の大画面に映る教員の手元を熱心に見ながらペンを動かしていた。

アニメーション学科

【アニメーションコース】

◆アニメーション原理演習

「物語性」を取り除いたシンプルな図形を操作し、アニメーションの本質である「動き」の性質を研究する、本学ならではの科目。杉井ギサブロー先生と馬郡貴司先生が指導にあたる。例えば、コンピュータの画面上で四角形を左から右に動かす、その速度や個数を変えてみる。――そうすると何が起きるか。こうした試みを通じ、学生たちは目の前で純粋に「動きそのもの」の性質が現れてくる様子を確かめながら「動き」を創る力を高めている。

マンガプロデュース学科

【マンガプロデュースコース】

◆ネームドリル実習

ストーリー制作の基本をマンガ原作者に学ぶ。岩見吉朗先生による、ある日の授業の課題は、「大嫌いな人を肯定的に描く」をテーマとした、短編マンガのストーリー。学生から提出された作品は、ギャグ、学園ドラマ、私小説風、伝奇ロマン、管理社会SFと十人十色だ。何と、この授業では、学生一人ひとりに携帯メールで添削指導がされる。教員の率直なコメント、学生からは再提出のテキストと、教室の外でも活発にメールが飛び交っている。

デザイン学部・マンガ学部の授業がはじまりました

ついに、デザイン学部、マンガ学部の授業がスタートした。新しい2学部より、各コースの授業をひとつずつ紹介する。

多彩な入試方式

2007年度入試は、受験生一人ひとりが個性を生かせるように、多彩な入試方式を用意している。AO入学制度や、大学入試センター試験を利用する学科・コースもあり、日程・方式を組み合わせることで可能性が広がるシステムになっている。

◆入試日程・種別および実施学科一覧

		AO	公募制推薦入試	一般入試 A日程 一般方式	一般入試 A日程 センター併用方式	一般入試 B日程	一般入試 C日程	一般入試 D日程	大学入試センター試験利用入試 前期日程	大学入試センター試験利用入試 後期日程
実施会場		京都（本学）	京都（本学）	人文学部（一般方式のみ）京都（本学） 芸術学部 京都（本学）、東京 デザイン学部 京都（本学） マンガ学部 京都（本学）、東京		東京	京都（本学）	京都（本学）	大学入試センターより指定された各試験会場で受験	
出願期間		学部・学科・コースにより異なります。	10／16（月）～10／30（月）	1／9（火）～1／23（火）		1／17（水）～1／31（水）	2／15（木）～2／27（火）	3／6（火）～3／16（金）	1／9（火）～1／29（月）	3／6（火）～3／16（金）
試験日			11／10（金） 11／11（土） 11／12（日） ※人文学部は11／11・12の2日間実施	人文学部 1／28（日）・29（月） 芸術学部、デザイン学部、マンガ学部 2／2（金）・3（土）・4（日）		2／13（火） 2／14（水）	3／4（日） 3／5（月）	3／22（木）	1／20（木）・21（日）大学入試センター試験を受験 本学個別の試験は課しません	
合格発表日			11／20（月）	人文学部 2／8（木） 芸術学部、デザイン学部、マンガ学部 2／15（木）		2／22（木）	3／12（月）	3／24（土）	2／15（木）	3／24（土）
実施学科	人文学部	全学科	全学部・全学科	全学部・全学科			全学科	全学科	全学科	
	芸術学部				全学科				メディア造形学科（映像コースのみ）	
	デザイン学部	ビジュアルデザイン学科※／建築学科			プロダクトデザイン学科	全学科	全学科		建築学科	建築学科
	マンガ学部	全学科			全学科				アニメーション学科／マンガプロデュース学科	

※デジタルクリエイションコースのみプレゼンテーション入試実施

【出願について】
出願期間中（消印有効）郵便にて受付。ただし、各試験種別の締切日翌日のみ本学入試課窓口にて17：00まで受付可能。

活躍する卒業生

「とにかく驚きました。夢がかなってしまった!という感じ。作家という職業があるのを知ったときから作家になりたかったので」。受賞の知らせを聞いたときの前川梓さんの感想だ。雑誌「ダ・ヴィンチ」が主催する「ダ・ヴィンチ文学賞」は今回が第1回目。応募総数531点の中から前川さんの作品が大賞に選ばれた。

大学在学時、大学が主催する文章表現講座や、マスコミ就職講座に参加し、初めて他人に文章を見せる機会を得た。「小さな頃からずっと人とは違うことをしたかった。文章でも、書き出しにこだわり、自分だけの表現を意識して書いていました。講師の方やクラスメイトにそれを評価してもらったことで自信がついて、ますます書きたい気持ちが強くなりました」。エッセーに近いものしか書いたことがなかったが、小説を書いてみたらどうかとその時にすすめられた。初めての本格的な小説は、卒業間近の4回生の冬に3日で書き上げ、締切りぎりぎりに応募した。それが受賞作『ようちゃんの夜』だ。

『ようちゃんの夜』では、十代の女の子の憧れと不安の入り混じった複雑な感情を書いた。受賞にあたり「言葉が絵になっている」「詩のような軽やかさ」など、シーンやフレーズの印象的な表現が高く評価されたが、実際に書くときもまずフレーズが思い浮かぶという。例えば『ようちゃんの夜』では、〝彼女は私の標本だった〟という一文。「その一文から膨らませていくので、どんなストーリーに組み立てよう、というのは全くないんです。頭の中に伝えたいイメージだけがあって、イメージを文字にしているだけ。だから、言葉が絵になっているといわれるのはうれしいです」。

今年の春から働く新聞社では、広告企画を担当している。「編集記者を志望していたので、最初に配属を聞いたときはガッカリしたんですが、予想に反してすごくおもしろい。企画から営業、取材まで、全部できるのが楽しいんです。デザインやキャッチコピーを考えるときに困ったら、すぐに友人に電話。大学時代のネットワークに支えられています。まだ仕事ははじまったばかりだけど、手ごたえを感じてますね」。

仕事に一生懸命で、今はまだ次の小説に取りかかっていない。「ずっと書き続けるつもりなので焦ってませんが、書きたいことがとにかくたくさんあります。読者の心を貫通するようなものを書きたいと思っています」。本屋で前川さんの小説を目にする日は近いはず。その時は本を手にとって、心を貫く言葉を確認してほしい。

「ダ・ヴィンチ文学賞」
雑誌「ダ・ヴィンチ」(メディアファクトリー刊)が主催する文学賞。前川さんの「ようちゃんの夜」は、応募総数531通の中から一次選考、同誌読者による二次選考、編集部による最終選考を経て第一回目の大賞に選ばれた。受賞作は「ダ・ヴィンチ」7月号に掲載、8月に書籍刊行を予定している。

前川 梓さん　人文学部人文学科卒業（202L258）

「第1回ダ・ヴィンチ文学賞」大賞受賞　新聞社勤務

助野嘉昭さん　芸術学部マンガ学科ストーリーマンガコース卒業（200N018）

「第71回手塚賞」入選

少年向けストーリーマンガでは最大の新人賞「手塚賞」で、審査員から絶賛されて入選した助野嘉昭さんのマンガ『帰ってください。』は、主人公である高校生男子のところに貧乏神がやってくるストーリー。〝幸せは平凡な日常の中にこそ在ること〟をテーマにしたコメディだ。「マンガはハッピーな方がいい」と助野さんは言う。

大学在学時から、マンガ雑誌へ作品を投稿していた。「その頃は、自分が描きたいものを描きたいように描いていた。分かる人にだけ分かればいいと思ってたんです」。読み手のことを考え始めたのは、大学を卒業してからだ。マンガ家を目指してマンガを描き続けながら、マンガについて真剣に考え始めた。人間関係の中から感じたことも、マンガに反映されるようになった。読みやすいように、伝わるように、考えて描くようになった。

「作品を作る上で一番苦労するのは、〝ネーム〟づくりです。下書きの下書きと言われるマンガの設計図のことで、〝どんなコマ割りにして、どんなキャラを出して、どんなセリフを喋らせるか〟を書き込んだものなんですが、昨年、ネームがうまく作れない状況にはまり込んでしまって、本当につらかったです。半年くらい、描いても描いてもおもしろいと思えなくて。精神的にもまいって、こんなに辛いのになんでマンガを描いているんだろう、と思いました」。

そんなとき、あるマンガ家の〝楽しさを伝えたいから、楽しみながら描いている〟というコメントを読んで、目からウロコが落ちた。「僕自身、マンガは娯楽だと思っています。ハッピーなものを描きたいし、読者に楽しんでもらいたいと思ってます。それなら、つくる方も楽しく描かないと面白さは伝わらないんだと思ったら、肩の力が抜けてラクになりました」。

受賞作のネームは2日で完成したそうだ。1ヶ月の〝作画〟期間も、楽しんで描くことができた。「読んでくれた人が面白かったと言ってくれることが、何よりの喜びですね。今は、次回作が面白いものにできるか、すごくプレッシャーを感じています。今回の受賞はもちろん嬉しかったけど、大きな賞なのでその分プレッシャーが大きい！大学の同期でも、もうすでにデビューして連載が決まっている友達もいるし…。とにかく次の作品を、力を込めていいものにしたいです」。これからの助野さんの活躍がとても楽しみだ。

「手塚賞」
集英社が主催する少年向けストーリー漫画の新人賞。昭和197年の上半期から始まり、年に2回行われている。助野さんが受賞したのは、第71回（2006年上半期）。審査員は鳥山明、尾田栄一郎、稲垣理一郎、手塚プロダクションなど。受賞作は7月発売の月刊ジャンプに全編掲載予定。

活躍する卒業生

2006年度新任教職員

2006年4月から本学に新任した教職員の方々です。

芸術学部

【造形学科】
内田 晴之（立体造形）

【メディア造形学科】
相内 啓司（映像）
林 ケイタ（映像）
應矢 泰紀（映像）

デザイン学部

【ビジュアルデザイン学科】
高橋 トオル（グラフィックデザイン）
川添 貴（イラストレーション）
森原 規行（デジタルクリエイション）
大下 大介（デジタルクリエイション）

【プロダクトデザイン学科】
吉田 治英（PCD）
茶谷 文子（PCD）
井上 斌策（IPD）

【建築学科】
辻村 久信（建築）
片木 孝治（建築）
坂本 憲子（建築）
小篠 ゆま（建築）
トム・ダニエル（建築）

【デザイン学部共通】
宮 一穂
佐藤 敬二

マンガ学部

【マンガ学科】
やまだ 紫（ストーリーマンガ）
さそうあきら（ストーリーマンガ）
下村 富美（ストーリーマンガ）
板橋しゅうほう（ストーリーマンガ）
齋藤 なずな（ストーリーマンガ）
西野 公平（ストーリーマンガ）

【マンガプロデュース学科】
岩見 吉朗（マンガプロデュース）
高取 英（マンガプロデュース）
林 律雄（マンガプロデュース）
西田 真二郎（マンガプロデュース）
佐川 俊彦（マンガプロデュース）

【アニメーション学科】
杉井ギサブロー（アニメーション）
くずおかひろし（アニメーション）
前田 庸生（アニメーション）
馬郡 貴司（アニメーション）
小川 博司（アニメーション）
下村 浩一（アニメーション）
中田 実紀雄（アニメーション）
吉見 貴司（アニメーション）

【マンガ学部共通】
吉村 和真
津堅 信之
杉本 バウエンス ジェシカ

事務局職員

竹田 亨（情報館図書情報課）
山元 英昌（就職部就職課）

2005年度退職教職員

以下の教職員の方々が2005年度で退職されました。

赤山 仁（芸術学部）
梶井 弥寿子（人文学部）
高島 寛（芸術学部）
長谷川 昇（芸術学部）
山本 圭吾（芸術学部）
杉本 修一（事務局）
中島 聡子（事務局）

訃報

本学事務局職員の吉村守さんが、4月2日、ご病気のためお亡くなりになりました。5日にご自宅で行われた葬儀には、大学関係者、卒業生を含めた多くの人々が参列し、お別れを告げました。謹んで哀悼の意を表します。

片桐理事長より、吉村さんを偲ぶ文章をお寄せいただきました。

思い出

理事長　片桐 充

吉村守さんがこの大学に勤めたのは一九七四年からのことです。短期大学だったころの学生は、だれもが教務課の吉村さんのことを忘れていないと思います。二学部の四年制大学になってからは教務課長、企画室長、事務局長、学生課長、教務部次長を務め、多くの同僚に信頼される存在でした。

てきぱきと仕事をこなす一方で、学生からの相談にも同僚からの相談にも時間を惜しむ様子はありませんでした。押しつけがましいところもなく爽やかな吉村さんでしたが、私には彼の熱血的な耐久心の記憶が焼きついています。

つい最近のことのように思い出されるのですが、八年ほどまえのことです。事務局長だった吉村さんと二人で、複雑な書類を徹夜で作ったことがありました。一睡もせずに猛烈な勢いでまとめ上げ、いちど帰宅したあと新幹線のホームで落ち合い、文部省まで持っていったのです。一晩のうちに、あれほど大きな仕事ができたことは、私には後にも先にもありません。もちろん吉村さんは、ずっと平常心の表情でした。

三年半まえガンが発見されてからも、私たちは穏やかさしか伺い知ることはありませんでした。最後まで穏やかに病気と向き合っていたと、ご家族もおっしゃっています。

吉村さんが水彩画を描いていたことを、亡くなった後に知りました。病床で描いたという絵は、淡い色彩の、優しい優しい草花や野菜でした。

画：吉村守

二〇〇五年度決算及び二〇〇六年度予算について

二〇〇五年度決算について

二〇〇五年度の帰属収入は、約六二億円でした。このうち学生納付金は八四%を占めています。

この中から、実習棟「対峰館」の第一期新築工事、その他学内施設の諸改修工事等で約一六億一千万円の施設関係支出を行いました。このうち、対峰館の建築資金に対して、私学事業団より六億三千万円の融資を受けました。また、対峰館の附帯備品の購入、情報処理教室のパソコン更新、春秋館（講義棟）の教室視聴覚機器更新、その他経常的な図書・備品充実等で約二億五千万円の設備関係支出を行いました。これらを含め、大学の基本財産取得に関わる基本金組入額は約一一億六千万円となりました。

消費支出（人件費・経費等）は約五五億円となり、その結果、二〇〇五年度の消費収支は約六億二千万円の支出超過となりました。この結果、累積消費支出超過額はおよそ二七億八千万円となりました。

資産が増加した一方、借入金、累積支出超過額も増え、自己資金率は一・三パーセント減少して、七九・八パーセントとなりました。

二〇〇六年度予算について

二〇〇六年度は、実習棟「対峰館」の第二期工事を行い、二年度に渡る新築工事を完成させます。また、「京都国際マンガミュージアム」を市内烏丸御池の旧京都市立龍池小学校跡地に開設します。これらの事業に伴う基本金組入等により、単年度では十五億円程度の支出超過の予算となっています。工事費のうち、五億八千万円は借入金により調達する予定です。また、マンガミュージアムの設置経費に対しては、文部科学省の補助金を受給する計画です。受託事業等によって外部資金を積極的に導入し、増収と教育研究活動の活性化を図ります。

二〇〇七年度以降も老朽化建物の建替え等により支出超過が続きますが、単年度収支をできるだけ早期に黒字回復し、教育研究活動の充実とともに財政の安定化をはかって行きます。

2005（平成17）年度
2005（平成17）年4月1日から2006（平成18）年3月31日まで

資金収支計算書
（単位：千円）

収入の部	
科目	金額
学生納付金収入	5,051,930
手数料収入	95,885
寄付金収入	25,310
補助金収入	579,630
資産運用収入	29,291
資産売却収入	2,531
事業収入	85,397
雑収入	163,170
借入金収入	630,000
前受金収入	1,548,467
その他の収入	248,107
資金収入調整勘定	△1,653,537
前年度繰越支払資金	6,933,180
収入の部合計	13,739,361
支出の部	
科目	金額
人件費支出	2,773,881
教育研究経費支出	1,361,417
管理経費支出	610,497
借入金等利息支出	76,578
借入金等返済支出	262,930
施設関係支出	1,611,400
設備関係支出	249,416
資産運用支出	1,040,334
その他の支出	134,449
資金支出調整勘定	△69,484
次年度繰越支払資金	5,687,943
支出の部合計	13,739,361

消費収支計算書
（単位：千円）

消費収入の部	
科目	金額
学生納付金	5,051,930
手数料	95,885
寄付金	45,981
補助金	579,630
資産運用収入	29,291
資産売却差額	0
事業収入	85,397
雑収入	163,170
帰属収入合計	6,051,284
基本金組入額合計	△1,159,690
消費収入の部合計	4,891,594
消費支出の部	
科目	金額
人件費	2,801,261
教育研究経費	1,855,579
管理経費	679,270
借入金等利息	76,578
資産処分差額	58,810
徴収不能額	36,185
消費支出の部合計	5,507,683
当年度消費収入超過額	616,089
前年度繰越消費支出超過額	1,160,248
翌年度繰越消費支出超過額	1,776,337

2006（平成18）年度
2006（平成18）年4月1日から2007（平成19）年3月31日まで

資金収支予算書
（単位：千円）

収入の部	
科目	金額
学生納付金収入	5,285,511
手数料収入	96,265
寄付金収入	24,000
補助金収入	1,111,750
資産運用収入	35,892
資産売却収入	0
事業収入	103,234
雑収入	70,598
借入金収入	576,000
前受金収入	1,366,000
その他の収入	317,130
資金収入調整勘定	△1,554,325
前年度繰越支払資金	5,687,943
収入の部合計	13,119,998
支出の部	
科目	金額
人件費支出	3,119,760
教育研究経費支出	1,481,220
管理経費支出	563,081
借入金等利息支出	79,640
借入金等返済支出	262,930
施設関係支出	2,319,990
設備関係支出	483,093
資産運用支出	1,000,000
その他の支出	133,083
予備費	100,000
資金支出調整勘定	△74,665
次年度繰越支払資金	3,651,866
支出の部合計	13,119,998

消費収支予算書
（単位：千円）

消費収入の部	
科目	金額
学生納付金	5,285,511
手数料	96,265
寄付金	26,000
補助金	1,111,750
資産運用収入	35,892
資産売却差額	0
事業収入	103,234
雑収入	70,598
帰属収入合計	6,729,250
基本金組入額合計	△2,200,000
消費収入の部合計	4,529,250
消費支出の部	
科目	金額
人件費	3,123,760
教育研究経費	2,011,220
管理経費	636,081
借入金等利息	79,640
資産処分差額	72,000
徴収不能額	37,000
予備費	100,000
消費支出の部合計	6,059,701
当年度消費収入超過額	1,530,451
前年度繰越消費支出超過額	1,776,337
翌年度繰越消費支出超過額	3,306,788

貸借対照表
2006（平成18）年3月31日現在
（単位：千円）

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	19,649,255	17,360,693	2,288,562
有形固定資産	17,078,094	15,819,577	1,258,517
土地	4,068,356	4,066,541	1,815
建物	10,420,100	9,241,119	1,178,981
構築物	608,158	610,591	△2,433
教育研究用機器備品	945,916	888,175	57,741
その他の機器備品	55,560	62,860	△7,300
図書	973,125	943,362	29,763
車輌	6,879	6,929	△50
その他の固定資産	2,571,161	1,541,116	1,030,045
電話加入権	3,566	3,566	0
有価証券	1,576,445	536,306	1,040,139
長期貸付金	381,034	391,079	△10,045
退職給与引当特定資産	448,950	448,950	0
第3号基本金引当資産	150,000	150,000	0
保証金	11,166	11,215	△49
流動資産	6,292,461	7,486,166	1,193,705
現金預金	5,687,943	6,933,180	△1,245,237
未収入金	261,407	199,614	61,793
貯蔵品	6,274	5,136	1,138
短期貸付金	12,122	4,391	7,731
有価証券	315,326	317,575	△2,249
立替金	4,724	17,804	△13,080
前払金	4,665	3,727	938
仮払金	0	4,739	△4,739
資産の部合計	25,941,716	24,846,859	1,094,857

負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	3,181,862	2,787,412	394,450
長期借入金	2,564,510	2,197,440	367,070
退職給与引当金	617,352	589,972	27,380
流動負債	2,064,126	1,907,320	156,806
短期借入金	262,930	262,930	0
未払金	76,354	87,814	△11,460
前受金	1,548,467	1,400,325	148,142
預り金	176,375	156,251	20,124
負債の部合計	5,245,988	4,694,732	551,256
基本金の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	21,973,065	20,819,375	1,153,690
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	150,000	150,000	0
第4号基本金	349,000	343,000	6,000
基本金の部合計	22,472,065	21,312,375	1,159,690
消費収支差額の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	1,776,337	1,160,248	△616,089
消費収支差額の部合計	△1,776,337	△1,160,248	616,089
科目	本年度末	前年度末	増減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	25,941,716	24,846,859	1,094,857

木野通信第42号 2006年6月20日発行
京都精華大学広報部広報課 〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137 TEL 075-702-5197 http://www.kyoto-seika.ac.jp
木野通信送付先住所の変更はkinokai@kyoto-seika.ac.jpまでご連絡ください。